

テンプル大学ジャパンキャンパス(東京都)

【大学・教育機関】

(文部科学省指定外国大学日本校)

商工会議所のイチオシ

グローバルな職場における女性の働き方をご紹介します



LEADER

学長 ブルース・ストロナク 氏

アメリカの大学として、日本で最も長い歴史と最大の規模を誇るテンプル大学ジャパンキャンパス(以下、TUJ)。東京都港区のキャンパスには、世界約60ヶ国から集まった学生約1900人が在籍する。日本に居ながらにしてアメリカの大学教育が学べるTUJでは、大学運営を支える事務スタッフが働く職場も、いわゆる「アメリカ流」。グローバルな職場における「女性の活躍推進」について、ご紹介する。

様々な文化・国籍、性別の人が働く職場 あえて「意識をしない」ことが、活躍を応援する

■ 背景：テンプル大学ジャパンキャンパスとは

1982年、本校は米国ペンシルベニア州立総合大学であるテンプル大学の日本校として、アメリカ最高レベルの大学教育と新しい選択肢を日本の学生に提供することを目的に設立・開校した。日本で初めて開校した海外の大学であり、日本に居ながらにしてアメリカの大学の学士号、修士号、博士号を取得することができる。また、学位取得を目的としないプログラムとして、社会人を対象とした生涯教育プログラムや、企業のニーズに柔軟に対応する企業内教育プログラムなどの提供を行っている。

■ 職場の状況：様々な文化・国籍、性別の人が働く

TUJを支える教職員は、約130名。日本・アメリカを中心に、20ヶ国以上の国籍のスタッフが在籍しているほか、そのうちの約半数以上を女性が占める。管理職にも女性が多く、副学長を筆頭に、部長・課長クラスでも多くの女性が活躍している。教育業界であり、かつ英語を使用して働くという魅力から、近年は若い女性からの採用応募が多く寄せられている。毎年複数名の産休・育休取得者があり、近年は男性の育休取得を奨励、実際に取得者も増えつつある。

■ 取組内容：あえて「意識をしない」という職場の風土を作る

教育業界という特性から、女性が多く働く本校では、あえて女性を特別に意識した社内制度や取組というものは実施していない。様々な文化・国籍、性別の人が働く職場では、あえて「意識をしない」ことが重要である。日本で「当たり前」のことであっても、海外の文化では受入れられないことも多く、「ダイバーシティ」あふれる職場で働くということを深く理解することが必要である。国籍や性別を問わず、あらゆる機会を等しく与えていくことが彼らの活躍を応援することであり、あえて「意識をしない」という職場の風土をいかに作り上げるかが求められる。

以前、子供との時間を多く持ちたいスタッフの要望に応え、有給休暇以上に休める制度を実施した。無給休暇制度(アンペイドリーブ)により、年12日から24日までの追加休日をとることを可能にし、週4日程度の勤務で働くことができる体制を整えたこともある。仕事に対する機会は、等しく与えられるほか、子育て経験者によるミーティングを定期的に実施し、情報の共有化には力を入れて取り組んでいる。



中小企業の実践ポイント

▶ 国籍や性別を問わず、あらゆる機会を等しく与えることが活躍を応援すること

■ さいごに：日本の中小企業経営者の皆さんへ

本校のように、ここまでダイバーシティがあふれる職場は、日本にはまだまだ少ない。様々な文化・国籍、性別を持つスタッフの活躍は、多様な知識・技術・価値観をもたらし、企業をさらなる発展に導くであろう。グローバルな企業として、本校の事例がダイバーシティ経営に向けた一つのヒントとして皆様にご活用頂ければと思う。

【企業データ】

代表者	学長 ブルース・ストロナク	会社設立年	1982年	従業員数	130人(うち女性は約半数)
本社所在地	東京都港区南麻布2-8-12	ホームページ	https://www.tuj.ac.jp/jp/		
事業内容	大学教育の提供、社会人向け教育サポートサービスの提供				